

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第2号を下記のとおり発表したの送付します。

令和5年度病虫害発生予報第2号

令和5年4月26日
岡山県

予報概評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量	作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	苗立枯れ(もみ枯細菌病による苗腐敗)	—	やや少	モモ	ナシメシクイ カメムシ類	やや早 —	やや多 やや多
	ヒメトビウンカ	—	少	ブドウ	灰色かび病 べと病	早 早	やや多 やや多
	縞葉枯病	—	少				
	ツマグロヨコバイ	—	少	キュウリ等	灰色かび病	—	やや多
萎縮病 イネミズゾウムシ	やや遅	並					
麦類	アブラムシ類	—	やや少	イチゴ	うどんこ病	—	並
	ヤノハモグリバエ	—	やや少	タマネギ	べと病	—	やや多
ジャガイモ	疫病	並	やや多	ナス等	ミナミキイロアザミ ウマ	—	やや少
モモ	灰星病	—	やや少	アブラナ科 野菜	アブラムシ類 コナガ	並 並	やや少 やや少
	黒星病	早	やや多				
	せん孔細菌病	—	並	キク	アブラムシ類	—	やや少
	褐さび病 モモハモグリガ ウメシロカイガラムシ	早 早	やや少 並				

1. 普通作物

(水 稻)

(1) 苗立枯れ (もみ枯細菌病による苗腐敗)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 昨年のもみ枯細菌病の発生は平年より少なかったことから、種籾の伝染源量は平年よりやや少ないと考えられる。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) ヒメトビウンカと縞葉枯病

予報内容

発生量 ヒメトビウンカ(第1世代幼虫) 少
縞葉枯病 少

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は23頭で平年(34.8頭)より少なかった。

イ. 県予察圃場(休閒田)における縞葉枯病保毒虫率は2.3%であり、平年(6.2%)よりやや低かった。

ウ. 昨年の縞葉枯病の発生は平年並であった。

(3) ツマグロヨコバイと萎縮病

予報内容

発生量 ツマグロヨコバイ(第1世代幼虫) 少
萎縮病 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場における越冬世代成幼虫の4月のすくい取り虫数は9頭で平年(16.1頭)より少なかった。

イ. 萎縮病は近年ほとんど発生が認められない。

(4) イネミズゾウムシ

予報内容

発生時期 やや遅 発生量 並

予報の根拠

ア. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低く、越冬成虫の本田への飛込み時期は平年よりやや遅いと考えられる。

イ. 近年、本田での発生密度は減少～横ばい傾向にある。

(麦 類)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査によると、発生圃場率は30.4%で平年(50.9%)よりやや低く、発生程度は軽微であった。

(2) ヤノハモグリバエ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査によると、発生圃場率は8.7%で平年(21.3%)よりやや低く、発生程度は軽微であった。

防除上の参考事項

ア. 被害はオオムギで多く、コムギで少ない。多発地帯では水田裏作としたり、コムギに転換する。

(ジャガイモ)

(1) 疫病

予報内容

発生時期 並 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. ジャガイモの生育は平年並である。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

2. 果 樹

(モモ)

(1) 灰星病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査では、花腐れの発生圃場率は7.1%で平年(21.4%)より低かった。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) 黒星病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. モモの生育は早めに推移している。

イ. 4月20日の巡回調査(越冬病斑調査)によると、発生量は平年並であった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(3) せん孔細菌病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査(春型枝病斑調査)によると、発生圃場率は0%で平年(13.6%)より低かった。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(4) 褐さび病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 並

予報の根拠

ア. モモの生育は早めに推移している。

イ. 前年の発生量は平年並であり、伝染源の越冬量は平年並と考えられる。

(5) モモハモグリガ(第1世代成虫)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 4月20日の巡回調査(南部)では、発生圃場率は0%で平年(1.8

%) よりやや低かった。

イ. 県予察圃場のフェロモントラップによると、4月1～4半旬までの誘殺数は0頭で、平年(0.1頭)並であった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(6) ウメシロカイガラムシ

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **並**

予報の根拠

ア. 赤磐市の発生予察圃場における越冬成虫の生存率は88.0%で平年(88.0%)並であった。

イ. 4月4半旬までの農業研究所内の気温を用いた予測式によると、幼虫ふ化最盛日(防除適期)は4月5半旬で平年(5月1半旬)より早いと予測される。

防除上の参考事項

ア. 令和5年度病害虫発生予察植物防疫情報第1号(令和5年4月18日発表)参照。

(7) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生時期 **やや早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップによると、誘殺最盛日は4月4日と推測され、平年(4月7日)よりやや早かった。

イ. 4月1～4半旬の誘殺数は74頭で平年(24.6頭)より多かった。

ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(8) カメムシ類

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 前年2月～5月のスギ・ヒノキの花粉飛散数を利用した予測式によると、本年4～7月の予察灯(赤磐市)への飛来予測数はチャバネアオカメムシが510.0頭(平年294.2頭)で平年より多く、クサギカメムシが29.4頭(平年48.4頭)で平年より少ないと予測される。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、飛来に好適な条件ではない。

(ブドウ)

(1) 灰色かび病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウの生育は早めに推移している。

イ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

(2) ベと病

予報内容

発生時期 **早** 発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. ブドウの生育は早めに推移している。

イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

3. 野菜

（キュウリ、ナス、トマト、イチゴ）

（1）灰色かび病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月21、24日の巡回調査によると、発生圃場率はイチゴでは27.3%と平年（34.2%）よりやや低く、トマトでは75.0%と平年（59.8%）よりやや高かった。また、キュウリとナスでは発生を認めず、平年（キュウリ0%、ナス4.0%：10年間で1年のみ発生）並であった。

イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件となる。

（イチゴ）

（1）うどんこ病

予報内容

発生量 **並**

予報の根拠

ア. 4月21、24日の巡回調査によると、発生圃場率は9.1%と平年（10.6%）並であった。

イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発病を助長する条件ではない。

（タマネギ）

（1）べと病

予報内容

発生量 **やや多**

予報の根拠

ア. 4月21日の巡回調査によると、発生圃場率は75.0%と平年（45.5%）よりやや高かった。

イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発病をやや助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 令和4年度植物防疫情報第9号（令和5年3月28日発表）「タマネギべと病に注意してください」参照。

（ナス、キュウリ）

（1）ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 **やや少**

予報の根拠

ア. 4月21、24日の巡回調査によると、キュウリ、ナスでの発生量は平年よりやや少なかった。

イ. 4月20日の季節予報（1か月予報）によると、気温は平年より低く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではない。

(アブラナ科野菜)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は162頭で、
平年(257.7頭)よりやや少なかった。
- イ. 4月24日の巡回調査によると、ダイコンでは平年同様発生を認め
ず、発生圃場率は平年(8.5%)並であった。
- ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低
く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではな
い。

(2) コナガ

予報内容

発生時期 並 発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬のフェロモントラップの誘殺数は、
19頭で、平年(28.0頭)よりやや少なかった。
- イ. 4月24日の巡回調査によると、ダイコンでは発生を認めず、平年
(発生圃場率:0%)並であった。
- ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低
く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではな
い。

4. 花き類

(キク)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

- ア. 赤磐市における4月1～4半旬の黄色水盤への飛来数は162頭で、
平年(257.7頭)よりやや多かった。
- イ. 4月21日の巡回調査によると、発生圃場率は20.0%であり、平年
(発生圃場率:39.5%)よりやや低かった。
- ウ. 4月20日の季節予報(1か月予報)によると、気温は平年より低
く、降水量は平年並か多いとされており、発生を助長する条件ではな
い。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。
アドレスは、 <http://www.pref.okayama.jp/soshiki/239/> です。

